東奥日報社提供

東　奥　日　報
2021年（令和3年）4月28日（水曜日）（20）

八工大と八戸市民病院開発

移動手術室に科学技術賞

科学技術分野で優れた成果を収めた研究者をたたえる本年度の文部科学大臣表彰で、八戸工業大学機械工学科の浅川拓克准教授（52）と八戸市立市民病院の今明秀院長（62）が開発した移動型緊急手術室（通称・ドクターカーV3）が、科学技術賞（開発部門）を受賞した。同大関係者の科学技術賞受賞は初めて。27日、同大で2人に賞状が授与された。

受賞対象となった「僻地（へき）救急医療の課題克服のための移動型緊急手術室の開発」は、同病院から離れたへき地での救命率と社会復帰率の向上を目指し、2012年度からスタート。自動車工学専門の浅川准教授が、今院長ら同病院スタッフの意見を基にミニバンを改造し、手術室の機能を備えたV3を開発した。同病院は15年6月に同大からV3の寄贈を受け、16年7月から運用を始めた。

V3では、心肺停止状態の患者を蘇生させるための人工心肺装置（エクモ）装着手術などを行うことができる。今院長によると、運用開始から今年3月までの出動は19件で、患者7人にエクモ装着手術を実施。このうち3人が治療に成功し、3人中2人が社会復帰を果たした。

科学技術賞の受賞を喜ぶ（左から）今院長、浅川准教授、坂本禎智八工大学長

同大で記者会見した浅川准教授は「若い救急医が憧れるような、どこにもない取り組みをしたかった。今後もV3を改良し、さらに安心して手術を行えるようにしたい」、今院長は「移動型緊急手術室は今後進化しながら、わが国のへき地救急医療に大いに貢献すると思っている。受賞はこれからの励みになる」と語った。

（千葉真由美）

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」